

今週のメニュー

■トピックス

◇ニューイ・ブランシュ KYOTO 2023 出展作品

～スペースデザインカレッジ、作品名：水影庵（MIZUKAGEAN）～

■随想

◇2005年シリア旅行記（序章）－シリアー

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇ニューイ・ブランシュ KYOTO 2023 出展作品

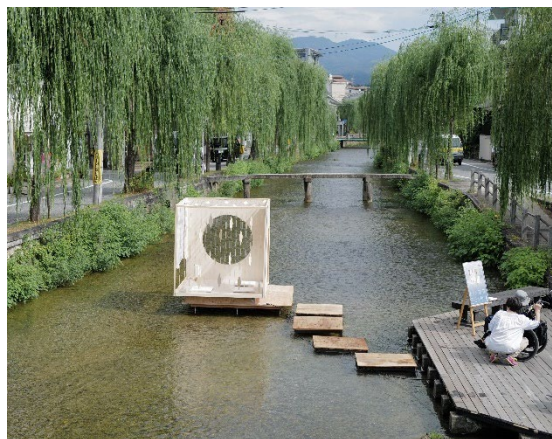
～スペースデザインカレッジ、作品名：水影庵（MIZUKAGEAN）～

9月30日、京都でニューイ・ブランシュ KYOTO 2023（以下、ニューイ・ブランシュ）が開催されました。このイベントは京都の姉妹都市 パリの白夜祭（Nuit Blanche）に着想を得た現代アートの祭典です。13年目を迎える今年は「パワー（PUISSANCES）」をテーマに、京都市内の各会場で日仏アーティストによるビジュアルアートや展覧会が開催されました。

ニューイ・ブランシュの会場の一つに白川親水テラスがあります。ここは安土桃山時代に建築された知恩院古門（指定文化財）の門前にあり、清らかな川の流りに柳並木が美しい情景を形作っています。

スペースデザインカレッジ（以下、SDC）は“20歳以上から学ぶ”インテリアデザイン専門の学校です（国内4校）。社会人になったけど将来の夢を諦められずチャレンジする方、仕事をしながら専門的な知識を身に付けたい方が学んでいます（学生の平均年齢は27歳）。毎年、白川茶の湯の会と共同で茶室（作品）をニューイ・ブランシュに出展されています。

今回のメルマガでは、白川の中に作成された水上茶室（作品）を紹介します（VECとJPECは作品に使用する塩ビシートを提供）。



写真①：京都白川水辺テラスと作品（茶室）

今年の作品では、天井から壁面にかけて風の流れをイメージしたオブジェ（写真③）を配し、床面に高透明塩ビシート（5mm厚）を使用しています。写真④の様に照明が塩ビシートに反射して茶室内を柔らかい間接照明で照らします。オブジェは川風を受けてクルクルと回転し、やさしい照明にキラキラと輝いていました。茶室内は白川の流りと川風を感じるまさしく和の世界でした。

（作品には透明で柔らかい軟質塩ビの特性が活かされていました）



写真②：川の上の茶室（夜景）



写真③：茶室の内側にて



写真④：茶室の床

～作品作りで一番苦労したこと～

オブジェ（写真③）は天井から壁までを一本の糸で繋いでいますが、図面上で思っていたものとそれを実際に作るもののギャップ：実際にどういう風に糸をかければいいのか分からず苦労しました。でも、苦労のかいあって、くるくる風で回るところなどイメージ通りになりました。また、川底の深さも微妙に違うので、今日、茶室を組み立てながら現地で調整するのに苦労しました（堀川さん）。

茶室の組み立てでは、一日中、川の中で膝まで水に浸かって作業されたとのこと。みなさま、お疲れさまでした（右の写真は作業中においてお願いして撮らせていただきました）。



知恩院古門にて（茶室完成直後に撮影）
（左 青野さん、中央 堀川さん、右 藤本先生）

～楽しかったこと～

図面で考案したり、設計してきたものが、実際の形（作品）になっていくのは本当に面白かった。また、ビスを打つ作業をはじめ多くの作業が初体験、楽しかったです（堀川さん）。

水上の茶室から見える川の流れと景観も合わさって、SDCのみなさんが全員で協力して作り上げた作品は、特別な空気感をもつ素敵な空間になりました。今回の作品作りを通して、それぞれの学生さんが多くのことを学ばれたのではないのでしょうか？ 今後、SDCのみなさんがインテリアデザイナーとして夢に向かって邁進されることを念願してやみません。

最後に、VECはこれからも塩ビに係る活動をサポートしたいと考えています。

■ 随想

◇2005 年シリア旅行記（序章）－シリア－

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

シリア、正式な国名は「シリア・アラブ共和国」。首都は「ダマスカス」です。シルクロードがアジアと中東を結ぶ交易路として栄えていた頃の中東地域の終着点。交易、交通の要所として栄えていました。また、交易により世界の文化や知識が集まるだけでなくイスラム文化の中心的な地域でもありました。

その後、イスラム文化の中心が他の地域に移されたことに伴いその重要性が薄れていき、いまのトルコにつながるオスマン帝国の領土となり、20 世紀になるとフランスの植民地に。1946 年に独立国となりました。

現在、シリアと聞くと“内戦”や“アラブの暴れ者”などのイメージが思い浮かべる方も多いと思います。



赤色は剣と革命を、白色は善と平和を、緑は大地の恵みを、黒色は過去の戦いを象徴しています。二つの星はアラブ連合共和国を結成したときの名残で、アラブ諸国の団結を意味しています。



[クリックで拡大](#)

中東にはアラブ諸国の主権を守り経済をはじめとする様々な分野で協力し、国際問題、国際関係についても加盟国が纏まって対応するため 1945 年に結成された組織「アラブ連盟」という中東版国連のような組織があります。シリアは「アラブ連盟」結成時からのメンバーでしたが 2011 年、内戦が始まり政府軍が化学兵器を利用したため「アラブ連盟」への参加が停止されていました。しかし、2023 年、ロシアの支援により「アラブ連盟」に復帰しています。

シリア内戦、当初はアサド大統領を支持するイラン、ロシアが後ろ盾となっている政府軍、サウジアラビア、アメリカが後ろ盾となっている反政府軍が争い、内戦というより代理戦争のようになっていました。

2016 年、シリア内戦が原因でイランとサウジアラビアが断交。

2019 年、アメリカが当時のトランプ大統領によるアメリカ優先主義のため反政府軍の支援を中止。このようなことからシリアへのサウジアラビア、アメリカの影響力は大きく低下しました。内戦の中、シリアに大きな影響力を持つようになったのが中国。

中国の仲介により 2023 年、内戦はかなり落ち着きを取り戻しつつあります。

内戦により 1200 万人以上のシリア国民が難民として隣国やヨーロッパ各国に流出し

ています。死傷者数もきちんと把握されておらず、日本の国勢調査のようなものも行うことが出来ないため現在、シリアの人口、年齢構成などの統計は正確なものが発表されていません。

隣国、ヨルダンの国境線沿いには数多くのシリア難民キャンプが設置されていますが治安も悪く一般人の立ち入りは厳しく制限をされています。

2017年、ヨルダンにあるシリア難民キャンプを訪れたことがあります。この時も立ち入り制限は厳しく、完全武装したヨルダン兵がガードを固めている検問所を幾つも通過する必要がありました。

私が訪れたキャンプは盗難や小競り合いはあるものの比較的治安もよく、世界各国から送られた支援物資も秩序よく配布されていました。

しかし、衛生状態はいいとは言えずコレラの感染患者が激増し病院は満床。症状が比較的落ち着いている人は住居として使用しているテント内で巡回看護での点滴を受けていました。

このようなシリアの国家元首はアサド大統領。2000年7月に父親の跡を継ぎ大統領に就任しました。

シリアはイスラム国家と思っておられる方も多いかもしれませんが、この地域は隣国チュニジア、レバノンなどもふくめキリスト教徒（カトリック、プロテスタント、原始キリスト教）の方も沢山居られます。また、イスラム教徒もアサド大統領が属するアラウィー派、アサド大統領の奥様が属するスンニ派、数は少ないですがイマーム派、ドゥルーズ派なども居る宗教的には複合国家です。イスラム教でも宗派が異なる方の結婚は珍しく、アサド大統領と奥様の結婚は新しい時代の到来だと話題になりました。奥様のアスマ夫人、イギリスの大学を卒業後 JP モルガンに勤務されており、お二人はロンドンで知り合われたのだとか。そういう意味でも新しい時代の方かもしれません。

現在は中東だけでなく世界各国の政治、軍事の影響を受け続けているシリア。それでも安定している時期もありました。これから始まる旅行記は 2005 年のお話し。シリアで内戦が始まる前の旅行記です。

（続く）

次回は、（1）3度目のシリア です。

⇒ [バックナンバー](#)

シリアってどこにあるの？



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp